



学校だより 10月号

つなぐ



天高く馬肥ゆる秋

～ 定番ですが、秋の夜長に何をする？ ～

異常であった夏も終わりを迎えます。「9月も夏だった！」というのは誰もが感じたことでしょう。台風やゲリラ豪雨の影響により公共交通機関がストップすることで、学校を止めざるを得ませんでした。ようやく秋を感じ始めたのは9月下旬からでしょうか。朝晩の気温差が激しくなりました。体調管理には十分に気をつけたいものです。また夕暮れが早くなりました。特に帰りの時間帯の交通事故が増える時期でもあります。中でも自転車で通学している人はライトの点灯とスピードには十分気をつけて事故を起こすことが無いようにしましょう。被害者となっても加害者となっても辛いものです。事故を無くすためには時間にゆとりをもった行動が大切であることをぜひ肝に銘じてください。

ところで、皆さん、「秋と言えば…」と言われ何を思い浮かべますか？ふと学校だよりを作成していると10月と言えばいつも同じ話題だなと思っています。学校の1年の後半戦に入ったということで周囲を見渡すことができるとともに、次へのステップアップのための準備に入りました。そのような中、季節も落ち着き、過ごしやすい時期となりました。実りの秋。様々なことにチャレンジし、将来のために蓄積していきたいものです。ということもあり、定番ですが「秋と言えば…」、今年の私は「秋の夜長の時間の使い方を考えよう。」と提案します。人それぞれ時間の使い方は異なります。どのような使い方であったとしても有意義なものとするという行動をとって欲しいと願っています。ちなみに気温が下がり夜も寝やすくなりました。「寝る前に読書をしています。」と言えれば恰好も付きませんが、実際には「スマホを見つつ一日の話題を確認していますという。」のが実態です。あまり感心できるものではありませんが、私も含めて皆さんも、もう一度「今の時間の使い方を見直してみませんか。」と提案いたします。自分のための時間をつくることからはじめ、ゆっくり温泉にでもつかり、ゆったり構えて積読気味の本を一気に読みたいというのが今の私の理想です。一方、50代も半ばとなると目が弱くなり、小さな文字を読むのもひと苦労です。平等に年は重ねるものではありませんが、若い時にしかできないことがあるということを感じているこの頃です(余計なお話しですが…)

最後になりますが、10月4日は日本大学の創立記念日について触れたいと思います。本校に限らず、私学は建学の精神を大切にしています。そのため、創立記念日は大切な日になります。創立記念日と言えば、「今日は休みだ！」と思った人の中で、学校を創立した日を記念日とするとしても、その背景やいわれに興味がある人はいませんか？日本人として日本らしい法律を作るという理念のもと、日本大学の前身である日本法律学校が1889(明治22)年10月4日に創立されたこの日を日本大学では創立記念日としています。宮崎道三郎先生や金子堅太郎先生・穂積八束先生など10名を「創立者」とし、「学祖」山田顕義先生のもとできた学校となります。なお、山田顕義先生は、1885(明治18)年からスタートした日本の内閣制度において初代司法大臣を務めた人物になります。明治期から現在までつながる私立大学の多くは法律の研究から始まっています。日本大学もそのうちの一つであり伝統ある大学ということができるといえるでしょう。未来を見通すことができない世の中において、伝統にあぐらをかくことなく、常に謙虚に時代とともに生きる学校、大学でありたいと私は思っています。そして次代を担うことができる人材の育成に尽力してまいります。